

第3学年 新学習指導要領解説 算数編を読む

1 主な改善点

目 標	A 数と計算	「小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする」が現行4年生から移行。
	B 量と測定	「かさ」は2年生へ移行。
	C 図形	「基本的な図形について理解できるようにする」は2年生へ移行。 「二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする」が現行4年生から移行。
	D 数量関係	「数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする」が入った。
内 容	A 数と計算	・小数と分数については現行の4年生の内容がおりてくるが、「簡単な小数と分数の関係」は新規追加
	B 量と測定	・「かさの単位(㊦㊧㊨)」「時間の単位(日,時,分,秒)」新2年生へ移行。 ・重さの単位に「t」を追加。
	C 図形	・「箱の形,正方形,長方形,直角三角形,敷き詰め」は新2年生へ移行 ・「図形の観察,二等辺三角形,正三角形,角,円,球」は現行4年生から移行
	D 数量関係	「数量の関係を表す式」が新規追加 ・式と図の関連付け ・ などを使った式

<一言解説>

2 算数的活動について

ア	整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
イ	小数や分数を具体物、図、数直線を用いて表し、大きさを比べる活動
ウ	長さ、体積、重さのそれぞれについて単位の間関係を調べる活動
エ	二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動
オ	日時や場所などの観点から資料を分類整理し、表を用いて表す活動

<算数的活動の例>

3 移行期（21年度）の具体的授業像

（1）新しい指導内容（ 領域は，新しい学習指導要領第3学年のもの）

領域	内 容	現行指導学年
A	（1）1億についても取り扱う	
A	4位数の加減	
A	3位数に2位数をかける乗法	
B	重さの単位 t	
C	ア二等辺三角形，正三角形	4学年から
C	イ角	4学年から
C	ウ円，球	4学年から

（2）授業例（啓林館 わくわく算数 3年）

【スパイラルな指導】

単元名 「大きい数をしらべよう [1万をこえる数]」

単元の概略（現行：8時間 新：全8時間〔省略1時間，追加1時間〕）

時数	指導内容
3	1 万の位 ・一万をこえる数の表し方とかき方 〔省〕・千万までの数のしくみ 〔追〕・一億までの数のしくみ
4	2 10倍した数，10でわった数 ・10倍(100倍)すると位が1つ(2つ)上がること ・10でわると位が1つ下がること
1	・4観点に基づく評価とふりかえり

本時の算数的活動

千万の上にも新しい単位がありそうだという想いをもちながら，1億について取り扱う。

本時の展開のポイント

第3学年では，万の単位について指導し，整数の表し方についての理解を深めるようにすることを狙っているが，「内容の取り扱い」で「1億について取り扱うものとする」と示されている。これは，第4学年で指導する億の単位へと接続できるよう，スパイラルとして指導するものである。

一万より大きな数を指導するときは，具体的に数えたり，順に数を数えたりする経験は少ないため，十進位取り記数法の原理を基にして理解を図ったり，万の位の目盛りのついた数直線上で数を表すことによって理解できるようにすることが大切である。